



濟樹先生文問答 · 完

□ 9
4459



嘉永辛亥新鐫

文武問答全

白灣亭藏版

柑上氏藏書

文武問答序

中江先生真儒也而超入聖賢之域
蓋儒之為行也宜然而無能及焉
抑天資不及者邪將記誦詞章之
學以誤之邪私泚之不可及也况
世之稱儒者虛驕大言暗喑以毫
自以為得者乎抑亦無望而之中
江先生



世英藏

德之

4459

之行非雷脩其身亦能及人鄙夫
 寬薄夫數能化其鄉黨至今不
 諼頑夫廉懦夫立能教其弟子功
 業有集豈非真儒之言咳唾皆玉
 而親近者享其餘光者乎即如此
 篇固崑山之序亦可以照人心之
 闇豈非連城之寶乎金雖私泚

其人已為記誦詞章所誤亦為博
 洵廣知受累抑天資不及也上毛岩
 井氏刻此篇想其所泚必與余同
 則其所至也必大矣抑亦有期焉
 故善為之序

嘉永四年辛亥夏深河元儻

香雪山晉書



文武問答

藏板



文武問答

近江中江藤樹著

上毛巖井任重鈔録



問て曰く文武の車の両輪鳥乃あ翼のふく〜や中からを〜以
 たる文と武といふ二色あり世にけりや又いふや知る事のと文武
 といふや 師の曰文と武と世にけり大なるいふ事とさるいふ世に
 けりといふ事と法より文に達し事ありの屋よりあふた車
 つる事と武といふ事と法より文に達し事ありの屋よりあふた車
 本文武一徳ありて名別あり事ありていふ知る事と法より文に達し事ありの屋よりあふた車

文武問答

白湾亭

夫も陰陽の二や塵のあはれく人性の感通一徳なりて文武乃
 若別ありて武なり文は真実の文に在りて文なり武は真実の
 武なりわが陰陽の根とあり陽は法乃根とありわく文は武
 乃根とあり武は文の根とありをを徳とじ地と緯とて天
 下を治とよく治めく又倫の道とて一うまると文と云天命
 と忠を以て忠も忠ぎや各乃其のありて文道と法すくると時
 の武を刑罰あり懲りありは軍とおおし征伐して天下一
 統の治とを武と云と云る故小戈と止とつて二事とあり
 せく武の字と法なりありて文道と法ありんた先の武なりわ
 武道の根は文なり武道乃威とありて治むる文道なりわ文

道の根は武なりその外弟事にて文武乃二一なる事とありてそのなり
 孝悌忠信の事と成心してあるなり文なり孝悌忠信の法なり
 と威ありと徳ありと法ありと徳ありと威ありと法ありと徳あり
 里を秋をの法なり徳ありと徳ありと威ありと法ありと徳あり
 万物と生成する造化成就するなりは陰陽二氣一や一はあり
 とつともおれ来りて一を尊の法なりとつとも一を来りて文武同
 一の徳なり武はありとありと文なりと秋をの法なりとつとも一
 乃陽なりとつとも一を尊の法なりとつとも一を来りて文武同
 秋をの法なりとつとも一を尊の法なりとつとも一を来りて文武同
 仁と義の同く人性の一徳なりとつとも文武の同く一徳なり

くまはまきねともあつちう羊なるふらつて見つけふあうひ
 てあはまきねのまひつりて云あつちうのゆつたたり
 眼あふは山平かとも目的なる人世にまねつりて見たり
 回て曰たはつて武藝文藝いつうぬめをておれや 師の曰をま
 あきんぬそはかときをて未とらうと取めまふつぬのこめつと
 つらふそは根中の仁義とあつちうのうに文藝武藝とぬめつ
 本末うそをぬる多能の君子とて世俗の権もつら花も実を
 ある人なりかあつちうに上には文藝武藝とのかを察つり本
 末先後のころへ簡要をそは 回て曰本末をぬる事をつら
 ちのぬつははらんや 師の曰末ときをてかときをひあつちう

文藝とあつちう文道とよくあつちう武藝とあつちう武功と
 あつちう人古来多し是れ本と末と小節をたる故にそはよく
 あつちうふさゆへに回て曰流勇と世間ふさゆへに流らまはつち
 のぬめつちものと武用ふさゆへに流らまはつちや 師の曰
 そはも衆先なるぬめつち流勇と世間ふさゆへに流らまはつち
 先のりくぬめつち志はぬめつちつちあつちう見つけぬめつち若
 小節流らまはつち又けけけるもあつちうみまの権おつち
 病るもあつちう又あつちうしきもあつちう唯まけふ流らまはつち
 あつちう勇怯と察するも目的のまねつち
 回て曰勇と仁義の勇血気の勇とを二つありとぬめつち

かる吾別ておきしゆいや 肝の日向徳のあきうらなる君子
 の義理とあり道とけし人非る毛以縁ふりうく欲人のゆいし
 色ふき由ふ義理とあり道とけし主親のあめふ命と惜まはる
 事やゆきふる屍とまつらぬくわい毛以死とおそき生と貪ふ
 何可結る故も土地の間ふけを毛あるべきのけしあふ人の
 欲ふあひても虎狼の物理ふ向ふく如くせしむらうくんはし怒り
 事うまうけるもあは極うその徳の仁義あきうらふまはし六の雷
 仁義のうらふ自らそまうてまのあふ小国く仁義の勇しり也
 かくの如くまに欲うく至大なる勇うけいすこ大勇とも名はる
 たりす人小福はるま実の武うまぬとあらはた大勇なり血争の勇は

理を程義不義の非なり只のこむき小極くして人小勝ちまのふ
 おそきはるはうらうけ小虎狼のけりもふひうくつこ人の
 得ともうけりけるもあて死と怖きはるし仁義の勇ふ似て
 色とも道理を程義不義の非なり只血争おゆせてむきうね
 い虎狼のけりまひいせあまうく位あるののれとあひあき
 きのい盗人とかはけり又欲人のゆき故よりたれおそく人
 危病するもの死とおそくに果つらうけ血争の勇者は年老く
 と本ともむ故小勝軍人武勇とまけし忠義のけり一版んるま
 色とも紋軍のけりその主君とまけしあはまうき振まひある武
 備者古来おわりの如くうけい只血争をうりの勇うくく義

理の用小勇は是れ血氣の勇といふ血氣のたけよむるよりそよくの
 おそは涼を是れ三才一重の大道とす人用大勇は是れ小體血氣の後
 小立よりなるなり又小勇とも名つけたり 同て曰大勇小勇は用ひ
 ずる所は也 師の曰大勇はかりて悪きおとく又用てあはき時
 解り得位は外は偏のゆへに大勇をてい道とす人用大勇は是れ
 軍陣あて大將中も兼て是れ大勇といふ小勇の人の武用を
 りの使ふ事とすていよくむしやふよくいぬとも大勇といふは
 くるは若より和漢とも小勇の大將勝利とすりするあけて
 かそよへはは様むむきりなり
 同て曰軍法といふはくおありてその流おほくと名りは大將ある

人の志らてかまそぬ事とて中絶は也 師の曰軍法は大將の志ら
 て叶たぬ度あて大將の軍法と知らはるは是れ是れ是れ是れ是れ
 法と知らはるは軍法と人の志らにあらては仁にあらり候
 譽用同ははるあるなり書法は是れ是れは是れ是れ是れ是れ是れ
 りらひやうの作法日とらるるは皮膚毛髪なり然るにこれこの
 人の志らぬは皮膚毛髪とらると軍法なりといひり志らるるは
 その法多しといふは旌旗金鼓を具のわらりりらひやうなり
 作法日とらるとは其の家は其の法ありてその流あまはははは
 皮膚毛髪なりといふこととはははははははははははははははは
 より時より考へてめたるよりは若しよりつて入来る流

とくまはしそその大物乃他法に七新らう〜定めあるもよる
 法に七務負のかまひふらうはるあふその流あす〜と知へ
 眼蒙用同あひ七務負の眼目と目と目〜只回〜一柳あ〜て流
 よつてかちると云といふは眼目的らうふと目達若れは七百載
 百務の功とあはる故よ大物と云〜この眼目くら〜と目と目
 法に七敗軍のおくせとらるはうらうる故あ〜と大物といへ
 後るにこの眼目と目といふは七世とを〜皮膚毛髪をうり
 と軍法うら〜と目と目といふは七世とを〜軍法陣法は
 未易よりあひの法代ふつて後らうと云七儲蓄なと
 代くの法質傳授〜未易り 日本めく假名うきふた

ありふあやまり多〜只本書と学ひありうよ〜軍法陣法
 とありのま〜にふたたるあ〜と七世の目と〜と目の務を
 りらひと〜と同一事なりある〜と物のまふあ〜と
 度と接固索驥とた〜とらる〜と目と目〜と目と目
 子より父の書と讀〜と目と目〜と目と目〜と目と目
 小因てあや死〜と後大物とらり大敗軍〜と七下の目と目
 とよまら目と目〜と目と目〜と目と目〜と目と目
 目と目〜と目と目〜と目と目〜と目と目〜と目と目
 儒の門ふ入て文武合一のめ徳とめら〜と目と目〜と目と目
 軍法のか書と学ひ眼目と目の工と目と目〜と目と目

小也、彼小武家才一の急勢也てハ、固て曰傷つもの心學とききこ
 免れし七も軍法小達一軍功と立てその名なき大將和漢其
 小古來多くおれハハ心學の磨きぬけても軍法の學ひい成中
 へくは然る小まの傷つもの心學とききこめて後ハ軍法と學ひハ
 けりしと後らまはハ不當小せんハ、所の曰なき、疑てハ大將
 の才と違一く生れつきある人の心學のみをみるくても軍法小
 達一軍功と立てるといふもその徳なき由ハ小才の違一き小由
 よい必人と殺を事と云の之不義不たのゆりすハあまハ義民
 その毒小あつらふけきこぬむ小つとく終ハハ正符とありて
 身も亡ハハ必もつらハ統滅するものなり、正統執ハもろハハ

也てハ、我知てその徳の徳ゆくて身のと違一き大將小其身小
 能く子孫繁昌したる人せれり、和漢の史書を考へるとハ
 支軍法の本之ハ、國が安穩武運長久ありて義民とやぐまん
 ありぬる小ハ、法て義民もその毒小あつらふものゆりつぎ
 必家も絶滅する泰とすハ、軍法小達一勲功とすも、其
 名ハ吾皇のつらりるなり、其上陰謀とのそりつらと一
 詐力小使して仁義の徳なきい多とハ、韓信項羽の才ありと
 いふとも、首割の款小法ハ盾つてありあつては、仁義の所
 小款せんり立軍小むくも、曠野小其つらハ天白陰經ハ齋の
 伎撃ハ親の武卒小あつらふ、親の武卒ハ秦の銳士小猪也

是は下品のくせをのほふと云くはくはくは君たる人の水
 用ふありきなりては法て法士と云くはくはくはくはくは
 法と才徳と功とありて三つのうち一つは上中下あり徳を
 文武合一の徳なり才徳は天下名家のありとありはくはくは
 武藝の才智藝能なり功はありはくはくはくはくはくはくは
 法と或は奉公奉公の功と云くはくはくはくはくはくはくは
 天下名家の徳を小する事と始てつたり出たり或は大款と云く
 武功と云くはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくは
 あり上中下のくはくはくはくはくはくはくはくはくはくは
 るくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくは

法はくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくは
 時乃功と才とのきんまはくはくはくはくはくはくはくは
 と才との名はくはくはくはくはくはくはくはくはくはくは
 ゆくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくは
 はくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくは
 のおよてはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくは
 是才も功も義理ふくはくはくはくはくはくはくはくはくは
 乃んらおきその徳も是はくはくはくはくはくはくはくは
 ゆるもくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくは
 才と功と徳のふくはくはくはくはくはくはくはくはくはくは

毛以わやまのりまけは、徳士のてらち自らまゝ、好つま実の徳と才
 と功ふ力とをひはし、正法の忠告と辱をまのりまのまき、善一の控
 の服より、何れとよき控をてま主人の心勝を、好いそのおきて、用ふ
 たるぬものまを、以て、い君する人を、ち抑する、へき、さ、り、え
 同て、曰、臣下と、い、い、や、う、ふ、つ、ひ、あ、り、う、く、忠、性、也、 所、の、曰
 主君の臣下と、い、つ、う、か、ま、い、公、的、聘、愛、の、心、と、才、と、う、て、め、り
 初より、人と、ま、ら、ひ、す、て、を、賢、智、愚、不、肖、を、あ、か、く、お、懸、の、用、持、し
 私、く、道、徳、才、智、あ、る、賢、人、と、い、言、位、お、わ、け、し、お、き、あ、る、の、後
 合、は、し、ら、う、く、才、徳、を、ま、い、愚、不、肖、も、あ、ら、う、は、均、あ、る、ま、と、あ、る
 ま、の、ま、り、其、均、た、る、あ、と、う、愚、志、の、低、く、お、懸、の、位、お、お、よ、う、

い、し、洗、う、ひ、ぬ、ま、い、人、間、小、用、小、あ、ぬ、ま、の、い、る、ま、の、の、あ、く、い、つ、り
 ひ、や、う、あ、い、き、ふ、よ、う、く、よ、ま、ま、の、も、用、よ、あ、ぬ、と、い、ゆ、へ、大、又
 の、衆、と、た、つ、る、材、木、の、つ、う、ひ、や、う、あ、く、合、息、を、へ、し、ま、と、才、智、抜
 群、る、人、も、各、均、を、好、る、ま、必、あ、る、の、の、り、を、好、も、見、ま、け、く
 均、ぬ、事、ま、い、し、つ、り、ぬ、う、宜、く、い、衆、小、入、あ、る、出、以、入、る、好、い
 均、あ、る、ま、均、は、る、る、好、ま、ん、と、好、く、又、人、も、ま、け、お、し、つ、う、ひ、あ、ひ
 ら、ら、何、し、ま、ま、い、その、人、均、均、る、事、あ、も、ま、し、つ、う、い、は、る、い、皆、ひ、ら
 変、あ、く、い、君、の、ま、い、ち、く、し、つ、う、へ、き、能、の、士、と、い、い、つ、れ、ま、も
 変、お、し、し、洗、う、ひ、て、こ、た、ん、う、ら、と、も、ん、あ、た、と、も、見、し、る、へ、な、れ
 た、人、つ、て、小、い、ひ、つ、ま、を、さ、く、は、う、ひ、る、あ、ら、か、う、た、い、能、も、懸、き、ま、

あるべきやうなり然る故よ出以のまのくとりやにのと同あや
 かりをうりへうやうのわやまり皆主君の心晴まゆまひよりおお
 せり主君の心とけりつうふあまの心磁石の針とまゝ入ると
 火いなるふつき水いなる泡なるにならるゝをさうなるは磁
 石のくちやうなりといをまけりくく主君の心と同一き入る
 らていつひかりぬそのまり心の晴き主君の心磁石と
 あつれをてもそまとい用ひは只君の心ふひうく晴ま
 るをそのまるとけりつうひあ人の心志するやふよきまを
 家中にまてをそふ回し主君の心あきらうなるはそのこゝろ
 ふ結うまひあるよきまるといけりつうひあまをぬゆふ

くせりの毛よくに腕り悪ともちてつとけくよくるりのうまひ
 わきくせそのまを海中にありてむまふむとく居下よきこ
 仰ふよまの乱るも治るも早免主君の心ひとくよあひは
 ありありありあり(き事あり)

同じ日法度い般多く厳くしたるうよく此能ひや 師の曰志おき
 法度の箇条の所おより時によりそけりまのるは多きうと記
 ともよくけきうよきともけりむうら法又教くしてよき事も
 けり緩くしうよきもあまいきひきうはともあきうや
 とも宜むへうは只時と所と位とおおゆるなる道理よまこひ
 たるうい志おき法度おおかまあり君の心ゆりてたどけひ

中此は中野の定めありて法の根元法名の条に法の枝葉なり
 君の好む事と云ふ所の下と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 道と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 師と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 志と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 たりと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 わりて最きりの之の始末は志なき法治の至極たる事なり
 法治なきは法乱なりとの事始末の世と云ふ事と云ふ事
 まりといふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 を今時の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 おまゝ其れを云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 能く得ん事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 あつて大之の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 法治の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 法小の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 由小未長く事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 法度と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 中りたりと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 や師の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

ひあつううひよき法度い活法とて度とゆへて定めぬのあり
 一偏小定りたるとい死法といひて用おあぬのあり法度いもい迹
 乃吾別あり周禮る記したる度い聖人玉時地利人情乃玉
 君とてうりて定免ぬ活法の迹行りその迹乃うあふゆりたる
 和のかきとんといふ其迹小よりて立法のかきとん法より為
 代の法度と定めるのみなり其其の迹小なるまは聖人のいふよ
 叶ふと玉君の活法といふそのいふと毎人長しき其の迹よりと玉
 とく七まねとてとと膠柱の死法と云くおろふといふ用おあぬ
 仕垂の法度い主君の徳とゆへて小く根本とゆへて周礼る
 ありて垂たる聖人の成法と考てそのかきとんはとる政の後止

時と取し位と二才お意の玉善と能く分別し七方古不易者中
 庸といふと眼といふ義理を七論して、谷長ゆきうといふ目のおり
 度小あてて休滞したるうといひ然る也小禮記小志おきの位極と
 耕他の事とかりて費的おは耕他小たとて見たりうといひ時と
 玉の時春夏秋を運命の百泰といふよりあといふ冬田とるあたと
 ぬせ耕他の法とるとよくほとめて用おあぬのありふは耕他
 の志やうあしき小固く用おたぬと、行くとた、時あうひあ
 めく傍して切るふお水そ学問も政も聖命氣教の時乃宜きと
 ありう身一なるるとゆへて耕他の時よりて小局小縮とる急回小
 豆と懸て、行かす精といふ其とし修理しても育てぬのうて

此の書は時をよく耕作のやうもよけまとも雨のちうひたるふく
 用ふたぬくそい見そ学問も仕並む水木の地利とある肝要な
 るとのむし一耕作の時より田不揃とて畝易小菽とててむ地
 利を能く叶ひては他人の田畠小極つけぬま、畝用不亦ぬえ
 小畝はして盗人の咎あるべし、此の時も亦もよけ水ともよけ位の
 分際ふるきとまよるゆゑなり見そ学問も政も人位の人と
 あるら大なるむとて休徳をへ耕作の時より畝田不揃とて
 畝易小菽とて雨も時を位もよく叶ひては水あり苗と極穢け
 たる種と極ては生へ育ぬぬあり見、天時地利人位を能く叶
 ひては苗と種も生理のきありあり見、此の学問も政も苗とあり種

と成るゆゑの生理的なる法を、時と雨と位とよ叶ひて聖人若
 法と用ても益なきと休徳をへ、時も雨も位もよく叶ひ苗も
 種もよく叶はむとて、年とては休徳の志あり悪くは、秋のとき実
 成りのふくは、時を位、雨もよく叶はむとて、人事の法とあり、雨のふく
 未だあり、学問も政も人事の務めとあり、まよとて、かゝるものと兼へ
 あるべし、時も雨も位もよく叶ひ苗も種もよく人々のつとめとよく
 叶はしては、或は大旱にやけ或は長雨ふくあり或は大風ふくをね
 成は、法もよけ、秋のとき、竹きありあり見、此の法とあり、命のふ
 ちあり、時を位、雨もよく叶はむとて、人事のつとめとよけ
 中、此の法もよけ、雨もよく叶はむとて、人々のつとめとよけ

人更とて勅免て其ふおの運命の七人力のるよきふ飛出好い
 乙天といふる人更とつとあせしと其ふあふ乙天のあふは自他
 の孽といふていとはる禍より耕也といはるじきやうに好きう
 やし人更の勅免ふ階り乙天次第よなとて云るいねのおるいひ
 事なりおきあふ或い家とかまじふとひらき或い家とらしむい
 國と亡も運命の端的とて休徳をへしやうに備るい品多
 くむつしきやうおはともはさるとあふいねの法とめうにさふ
 一のふきをすむいねの法あ明ふいねの時取位の場へつ人事乃
 はとあ運命のいねに免階の終とつむらじし 同て曰學問
 とまわりとていね別けるよのとせんしはいねのあふ事也

師の曰然して世間ふ學問ふもつとあるあひつらむさくは正法の
 學問のうなる所る也ふきと西よひあるうこうひあるあふて
 は學問の法とめふきをと金持根かると信の法は土地を形
 介へ道とよむけおきとて神的不測なるあふい乙天と
 と治る政の法神道神用の要領とていねに政の法とめふ
 ちるの學問のいね乙天國と治る政のうかま一つめして二
 乙かていねとよとめつとてそのう法度の箇條をうい政
 也いねくは乙子法度の身ふけひたまふ一事はふのこまふ一と
 と解志おきの根おるいねまはりあやと學問とが本同じ一理
 なる事とあきうのふ得んをへし

此一卷近江藤樹中江先生所著在其隨筆
中頃家君抄錄名曰文武問答乃刻藏于家
為問文武之道者以告焉

嘉永庚戌六月

男 巖井孚謹識

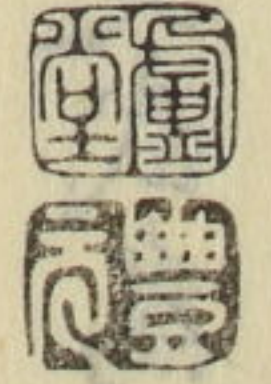
書藤樹先生文武問答後

此書先生自問自答之語也予謂文武為
事至大然使先生揭其要而言之二三百
言足矣今乃設問答國字記之懇切開諭
務教讀者易曉即先生之所以為先生而
其學出乎誠也誠者先實後名其棄過高
之論而汲汲於提撕警覺不亦宜哉安中
巖井氏不藏之笥底而上梓公世其意亦

出於憫不知文武正路以誤一生者而與
先生著書之旨符兵予嘉此舉欣然書其
後云辛亥肇秋初吉羽倉用九識

安中侍璽

津金豐元書



[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '言', '事', '此', '書']

